

講義名	情報倫理（経済学科）			授業形態		
担当教員	三谷 哲雄	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 1時限			
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング

主題と概要

注意
PDFファイルでは全ての内容が表示されない場合があります。必ずRyukaPortalのシラバスWebページで確認してください。
この科目は、「原則対面だが状況によってはオンラインでの並行開講の可能性のある」科目です。詳細は、「履修にあたっての注意・助言他」に記載していますので必ず確認してください。
「備考」には、「受講上のアドバイス」を記載しています。必ず確認してください。

インターネットの普及に伴い、電子メールでの迷惑行為、Webサイトでの詐欺行為、不正アクセスによる情報漏洩、著作権の侵害、文化摩擦など、日常生活において、これまでにないトラブルが生じている。このようなトラブルを避けるため、「情報倫理」では情報社会で生きるために必要な最低限の知識を身につけることをめざす。

到達目標

受講生は、インターネット社会における加害防止や被害防止のために一人一人求められる基礎的な資質を習得することで、情報社会をこれまでよりも安全に生きることができるようになる。
具体的には、次の点の習得を目指しています。1つは、「インターネット社会（あるいは情報社会）」において、生活者がネットワークを利用して、互いに快適な生活を送るための規範や規律」という「情報社会の倫理」の習得です。加えて、生活する上で出てくる切迫感や不安感に起因する様々なトラブルに対する被害防止、加害防止のための「体系的な知識」の習得です。またそれらのトラブルは、日々変化しています。それに対応した「最新の知識」を習得することも重要です。

提出課題

授業の進捗および内容に応じた複数回のレポート課題（宿題として）を予定している。
提出方法は、次の2つの方法を予定している。いずれの方法をとるかは、授業中に指示する。
1) 授業中に課題を提示し、指示された作成要件および課題要件を満たすように作成された課題成果物を次の授業の開始直後に教員に個別に提出する方法
2) 授業中に課題を提示し、指示された作成要件および課題要件を満たすように作成された課題成果物（Wordファイル）を次の授業の2日前の13時までにRYUKA Portalで提出する方法（提出用のレポート課題を提示します）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次の2つの方法を予定している。いずれの方法をとるかは、授業中に指示する。
1) 課題提示次の授業の開始直後に教員が個別に回収する場合、各学生から回収する際に内容を概観し、寸評を行う予定である。全員の回収が終了したのちに、全体の講評を行う予定である。翌授業日の開始直後に、個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う場合もある。
2) RYUKA Portalでの提出の場合：翌授業日の開始直後に個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う予定である。

評価の基準

提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は、提出課題（宿題としてのレポート課題）に40%、定期試験もしくはそれに相当する課題に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。

履修にあたっての注意・助言他

- (0) 授業の実施方法
- 1) 実施形態
この科目は、「原則対面」で実施する科目です。ただし、本学学長の判断により、途中から対面とオンデマンドの並行開講に移行する可能性がある科目です。もし並行開講になった場合、「対面のみクラス（対面1クラス）」で履修登録した受講生は、そのまま対面形式で受講します。「対面・オンライン並行開講クラス（対面2クラス）」で履修登録した受講生は、自授業を担当している教員が準備したオンライン講義を受講します。オンライン講義の受講方法は、その担当教員の指示に従ってください。
 - 2) 学校感染症の中で特に新型コロナウイルス感染症による影響で一時的に通学が困難となった場合
当該学生には、通学停止期間中の対面授業の講義資料の配布、授業録音の提供、通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可、要望に応じて補習授業の提供、などを必要に応じて実施します。詳細は、該当する授業日の担当教員の指示に従ってください。
 - (1) オンラインサービスやICT機器の利用
本科目では、授業に関する動画の視聴のために、Microsoft社が提供している動画共有サービス「Stream」の本学専用サイト（大学のアカウントとパスワードでログイン必要）を使います。視聴方法は、講義連絡にて連絡します。
また、授業中に授業に関連するWebページの閲覧や検索などを行います。通信の可能なPCやタブレット、スマホなどの端末を持ち込んで携いません。もちろんなくても問題ありません。
 - (2) 受講のコツ

教科書

・インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版	情報教育研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	495	978-4-407-34621-3
---------------------------	----------------------	------	-----	-------------------

参考図書

・なし				

その他

追加資料を配布する。なお資料は、RYUKA Portalの講義連絡にてPDFファイルとして配布する。参考文献は担当教員が必要に応じて指示する。

授業計画

- (1) 基本方針
到達目標である【情報社会の倫理】や【体系的な知識】に関しては、教科書(テキスト)と補助教材(ビジュアル教材)を使って6つの講義項目を体系的に学びます。また、【最新の知識】の習得のために、Web記事(ニュースサイトなどに掲載されているニュース記事や解説記事、コラム記事など)を活用して、いまインターネット社会で起きている様々なトラブルの実態やその原因、対策などについて考えます。『レポート課題(提出課題)』(宿題は1回目の授業にて説明)は、授業の進捗に合わせて、宿題としてほぼ毎回実施します。【定期試験】は実施しません。その代わりに、授業全体の総まとめとして「定期試験に代わる2つの課題(詳細は1回目の授業にて説明)」を授業の最終日に実施します。
- (2) 6つの講義項目
① インターネット社会(情報社会)における情報倫理の果たす役割
② 個人情報の大切さとその扱い方
③ 知的財産を守るために
④ ネットにおけるコミュニケーションとマナー
⑤ 情報社会における生活の変化
⑥ インターネット社会で安全に過ごすために
- (3) 1回目の授業の基本的な流れ(詳細は1回目の授業にて説明)
2回目以降：基本的には次のような流れで授業を進める予定です。
0) 資料：1週間程度前にRYUKA Portalにて事前配布(PDFファイル)
1) 予習：講義に関する資料や教科書と共に予習動画を観て事前学習(予習動画は約1週間前に公開予定)
2) 授業中：事前学習の内容の確認、授業に関するWeb記事の紹介や解説、事前学習の内容を踏まえたWeb記事に関するディスカッションなどを予定(前回の宿題講評や当日の宿題提示なども含む)
3) 復習：資料やテキストなどで復習、宿題としてのレポート課題(提出課題)の発行・提出
- (3) 動画活用
本科目では、予習動画に加え授業動画とも用意します(予定)。授業動画は、授業中の教員PC画面や音声を取録した動画で、授業の復習用に公開します。必要に応じて活用ください。
- (4) 実施スケジュール
01 インタロ
02~13 各回の事前学習にて6つの講義項目を学習・授業中はそれも踏まえたWeb記事での学習(文字数制限のためやむを得ず略語を使用。授業では正確に示します)
02 ネットやコミュニティの特徴・秩序
03 情報社会の特徴
04 個人情報
05 知的財産権
06 著作権
07 メール
08 Webページ
09 社会の変化
10 トラブル犯事の変化
11 ネットの危険要因
12 安全を守る仕組み
13 対策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

A：PBL（課題解決型学習）	I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
U：ディスカッション、ディベート	E：グループワーク
O：プレゼンテーション	C：実習、フィールドワーク
K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

基本的には、講義形式、です。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義資料（配布資料や授業動画など）や教科書の該当箇所を用いて予習をしてください。講義終了後には当該箇所を復習してください。講義資料や授業中に示された情報倫理に関するニュース記事や解説記事などには注意を払っておいてください。これらの準備学習に毎週4時間程度をかけることを目安とします。もちろん、レポート作成もこの中に含まれます。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（DP:ディプロマ・ポリシー）に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭[]内に4段階（0～3）に分けて記載する。各段階の意味は、教務部の指示に従った。

- (1) 「ネアカ」のひびく「へたれず」の精神をもった人材
[0] 夢や志を持ち、明るく元気でどこにいても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。
(2) 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材
[3] 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
[1] 収集した情報の信頼性を客観的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
[1] 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
[0] ささまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた通商や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)
(3) 創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材
[0] 新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる
(4) 自主・自立の精神を持った人材
[0] 物事に自ら進んで取り組むことができる
[0] 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる
[0] 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる
(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
[0] 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
[0] 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には、講義形式、です。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や閲覧などを行う場合もあります。また、受講生には、講義に関する発問を求めるともあります。さらに、Web検索や発言のテーマは、事前学習で予習してきた内容に基づくものであり、その意味では、反転授業の要素も含まれます。

実務経験の有無及び活用

備考

- 受講上のアドバイス
(1) RYUKA Portal（りゅーか・ぽーたる）
1) 必ず確認すること
受講生の皆さんへの連絡は、授業中だけでなく、適宜、RYUKA Portalでも行います。RYUKA Portalでの講義連絡などの確認は、「My時刻割」ページが便利です。科目ごとの講義連絡やレポート課題などを一覧で見ます。講義資料は、講義連絡に配布される場合がほとんどです。講義連絡のページには、掲載期間があります。掲載期間が過ぎたら、ダウンロードできません。連絡を受けたら速やかにダウンロードし、自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください。レポート課題を提出した後は、その提出状況を必ず確認してください。